



組合員と不断の挑戦

第28回JA全国大会開催 節目の30年を振り返る

JA全中は「第28回JA全国大会」を3月7日に東京都港区で開き、2019年度から3年間のJAグループ共通の取り組み方針となる大会決議を採択しました。「創造的自己改革の実践」を主題に、引き続き「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を継続。改革の実践を支えるため、JAの経営基盤の確立・強化にも重点課題として取り組んでゆきます。節目の年にあたり、JA全国大会の30年を振り返ってみます。

21世紀展望から共生の世紀、そして創造的自己改革

今回の第28回JA全国大会は平成最後の区切りで、大きな節目を迎えました。改元や政府による農協改革集中期間の期限、食料・農業・農村基本計画の見直し議論、参院選、日米貿易協定交渉もあります。

30年を振り返ると、第18回大会（1988年12月）では「21世紀を展望する農協の基本戦略」を決議。同年、牛肉・オレンジ輸入自由化が決まり、国際化に対応した農業確立などの構想を掲げました。18回から21回まで4大会続けて「21世紀」を冠に掲げ、新世紀への組織対応と方向性が提起されました。この間、米の部分市場開放を含むガット（関税貿易一般協定）ウルグアイ・ラウンド農業交渉が妥結。97年の21回大会では、事業と組織を各2段階とする転換を決めました。

98年に次世代・消費者・アジアとの「3つの共生」実現を国民運動として進め、この運動の結果、99年には食料・農業・農村基本法が制定されました。

結集力で難関突破 改めて「共生」と「協同」の 価値見詰め直す

2000年の22回から06年の24回大会までは「農と共生の世紀」を掲げ、助け合い補い合いながら共に生き、精神的、経済的な豊かさを享受できる社会をめざしてきました。

JAグループは15年の前回大会から「創造的自己改革」を明記し、自主・自立の組織を前面に出し、結集力で難関を突破し、農業者、地域にとってなくてはならない農業協同組合像をめざしています。

あぐり メッセージ 私ひとこと から



金山町稲沢
丹葵さん(27歳)

農 家の娘として生まれ、自然と農業があり、小さな頃からよく父の水田の見回りについてゆきました。父から教えてもらった田んぼのことなどを今では子どもたちに伝えています。今年3歳になる娘が、昨年の稲刈り後の田んぼを眺めて「みんななくなっちゃったね」とつぶやいたときがありました。私が「収

穫した稲穂が大切なお米になるよ」と話すと驚いた表情を見せていました。母親として言葉で教えるだけでなく、食育の面でも「おいしいと思える食材」を食わせてあげたい。そのためには安全・安心で新鮮な食材が購入できる「地産地消」を推進し、販路拡大などをぜひ進めてほしいと思います。

次代を担う子どもたちが農業や農作物にもっと親しめるよう、そして、大人になったとき「つくること」や「食べること」、また、「生きてゆくこと」の意味を大切にしながら食べ物に存分に楽しめるよう、日本の農業、山形の農業がより発展されることを一人の母親として願っています。

「四角いお米」で地元産PR キューブ型パッケージ入り作製



町オリジナルの金山米ロゴを使用した「つや姫」と「雪若丸」のキューブ型パッケージ入り「四角いお米」

1個350円。町内のマルコの蔵やホテルシェーネスハイム金山で販売。ふるさと納税の返礼品としても扱います。

つ や姫」が白で「雪若丸」が赤のパッケージ。粒ぞろいの米を厳選しています。金山米ロゴは、金山の文字と、四つの丸と2本の線で米を表し、ふるさと納税の返礼品用などに使用し、町一体で金山米のブランド化に力を入れています。

同 法人の青柳栄一代表（59）は「米の消費拡大に貢献できたらと考え企画した。観光客にも気軽に味わい親しんでほしい」と話されています。



女性に人気の高いアイテム「ハーバリウム」の制作体験を行った冬季講習会。講師を囲み自作の作品を手にする部員の皆さん

「ハーバリウム」とは、専用のオイルを入れ、オリジナルのハーバリウムを完成させました。参加者からは「花が持つ美しさを感じられてまるで生きてるようです」「入る瓶の形で見目の華やかさが楽しめて気持ちも癒されます」「部屋のインテリアとして飾ってみます」などと大好評でした。



第2回冬季グラウンドゴルフ大会の開会式

第2回冬季グラウンド・ゴルフ大会
2回大会は金山町多目的室内運動場で開かれ、朴山の伊藤貢さん(81)が優勝しました。健康意識の高揚と会員相互の交流促進を目的に、楽しむ生涯スポーツ「グラウンド・ゴルフ」の大会を厳冬期に企画。昨年より5人多い62人が参加されました。男女個人オープン戦で8組に分かれ2

GG大会へ62人・日帰り旅行研修へ47人参加
JA金山年金友の会の「第2回冬季グラウンド・ゴルフ大会」が2月8日、また、日帰り旅行研修は3月1日に行われ、会員の皆さんが交流と親睦を深めています。

ラウンドで競技。この日は室内の会場でも吐く息が白くなる真冬日でしたがホーリンワンなど好プレーが続出し盛り上がりました。競技後は味の浸み熱々の玉こんにゃくを食べて体を温めました。

同会の西田健治会長(81)は「冬でも土の上で和気あいあいと楽しめました。今後も交流を広げ活性化をはかってゆきます」と話しています。



岩手県金ケ崎町の「金ヶ崎要害歴史館」での記念撮影

日帰り研修旅行 今年も岩手県内 金ヶ崎要害ひな祭りと遠野で昔話
日帰り研修旅行は3月1日、47人が参加しました。毎年ひな祭り時期に合わせて県内外を巡る人気のツアー。9回目の今年、岩手県金ヶ崎町の国選定

「金ヶ崎町城内諏訪小路・重要伝統的建造物群保存地区」や民話のふるさと遠野市などを訪れました。金ヶ崎要害歴史館で「金ヶ崎要害」の歴史や文化をじっくり研修した後、実際に諏訪小路地区を歩いて視察。ていねいなガイドの説明を受け、待住宅の特徴や半土半農の暮らし、屋敷内に飾られたひな人形など見学。遠野市の遠野城下町資料館遠野座では、語り部による素材で温かい昔話に聞き入りました。

「すばらしい歴史や文化に触れることは気持ちの新鮮感につながる感じがします」と、西田健治会長(81)は研修の意義を話されています。